第３学年４組　道徳科学習指導案

１　主題名　　思いやりを表現する　〔Ｄ　生命の尊さ〕　６時間完了
教材名　「命の選択」　出典「中学道徳③　きみがいちばんかがやくとき」光村図書

２　道徳科のねらいとＥＳＤの視点

道徳科の学習	ねらい	ＥＳＤの視点
道徳的諸価値についての理解を基にする学習	生徒がこれまでの生活経験や多くの人々との触れ合いの中で身に付けてきた道徳的価値をもとに，時期や生徒の実態にあった道徳教材との出会いや，他者との関り合いを通じて，改めて自分の道徳的価値について問い直す。	Ｈ　多様性 Ａ　連携性
自己を見つめる学習	自分のこれまでの生活経験を振り返ったり，自分事として考えるきっかけをつくったりすることで，授業の前後での自己の考えの変容を明確にすることができる。	Ｃ　責任性
物事を多面的・多角的に考える学習	他者との道徳性の違いを認め合うカタリバ活動での対話を通じて，自己の道徳性を問い直し，新しい考えに気付くことができる。	Ｓ　相互性 Ｈ　多様性 Ａ　連携性
自己の生き方についての考えを深める学習	ポートフォリオを作成し，毎回の道徳の授業で「思いやりを表現する」ことについて振り返ることで，自己の生き方についての考えを深めることができる。	Ｃ　責任性 Ｉ　有限性 Ｎ　公平性

３　主題設定の理由

（１）題材観・教材観

本時では尊厳死について考える。尊厳死とは，不治で末期に至った患者が，本人の意思に基づいて，人工呼吸器の装着や栄養補給の開始など，死期を引き延ばすの延命措置を受けないで，自然の経過のまま受け入れる死のことである。安楽死と比較されることが多いが，安楽死は，本人の希望により，主治医が薬物を用いて死に至らしめることを意味する。人為的に死を招くことになるので，日本では犯罪とされている。欧米の一部の国では，死期が差し迫っていなくても，家族の同意がなくても，安楽死は認められている。一方，尊厳死においても，アメリカ全土，イギリスなどの欧州諸国，台湾やシンガポールなどのアジア各国で認められている。しかし，日本では，十分な議論はされていない状態である。

本時で扱う「命の選択」は，肺にがんが見つかった祖父の治療に関して家族が葛藤する様子が描かれた物語である。祖父は延命措置を望まないと意思を家族に話していた。家族も初めは尊重するつもりでいたが，祖父の苦しむ姿を見て，祖父の意思に反して延命措置を施すことにした。

この題材では，家族に迷惑をかけたくないという思いをもつ祖父の意思と，苦しむ姿を見た家族の気持ちの変化を追いながら，家族が尊厳死を選択するかどうかの難しさを多面的に考えていく。意思を尊重すべきだという考えと命を尊重すべきだという考えは，摩耗を生み，絶対的な答えのない，大変答えづらい問題である。命という尊いものを扱ううえで，デリケートではあるものの真剣に向き合う必要のある題材を通して，多くの人の考え方を聞く場を設定することで，多面的に考える力をつけ，相手のことを思いやるとはどういうことをするのがよいのか考える中で、よりよい生き方を見つけさせたい。

（２）指導観・目指す子供像（含生徒観）

本学級の生徒は３４名で明るく，友達に優しい生徒が多い。学校生活における生徒同士の様子を見ていると，男女分け隔てなく接したり，協力したりすることができている。４月当初から小グループで課題を解決する，グループワークトレーニングの機会を取り，和やかな雰囲気で級友の情報を聞き出したり，情報を整理したりする姿が見られた。しかし，グループの様子を注意深く見てみると，率先して意見を言うことができる生徒のみでほとんど進行してしまい，そのほかの生徒は，聞いているだけという場面を多く見受けられた。教科の授業においても挙手をして発言する生徒はいつも決まっており，そのほかの生徒は傍観者となってしまっている。これは，人任せにしてしまう生徒と，多くの意見を聞き入れることができず，自分だけで話を進めてしまう生徒がいるからだと考える。

本学年は１年生では「思いやり」，２年生では「善進」を学年のテーマとして進めてきた。学年の生徒の特

徴としては，思いはあるけれど，表現することが苦手なため，その思いを表現する場面が増えてほしいというのが現在の学年の課題である。新しいものを作り上げ，火花を散らすように困難や逆境に逃げずにぶつかり，思いやりを形にしてほしい，という願いを込めて３年生では，「火花」を学年のテーマとしている。小単元のテーマを「思いやりを表現する」として，テーマに沿った異なる内容項目を複数時間設定して構築した。さらに，生徒の考えの深まりや変容が振り返る場として，小単元を一枚にまとめたポートフォリオを作成した。このポートフォリオから，授業内での道徳心の変容だけではなく，単元を通しての移り変わり，そして単元学習の前後の道徳心の変化を振り返ることができ，個人内評価もできるようにしている。

本時の「命の選択」では，小グループで表現する場を設けることによって学級全体での話し合いの場面でも意見をより表現することができるのではないかと考え，チーム学習を取り入れることにした。事前読みを行うことで物語の内容を授業内に把握するだけではなく，意見の交流の時間も確保できる。また，尊厳死についての考えを事前にアンケートをとることによって，考え方の異なる生徒を意図的に同じグループにして，４人で一つの班を作る。そうすることで，意見交換が活発になり，多角的なものの見方に気付くことができる。さらに，班長と副班長を設定し，司会役とすることで，チーム全員が意見しやすいように進行していく。父母や祖父の思いを深く考えながら話し合いをしていくことによって，命を尊ぶ心を育むとともに，命について多面的・多角的に考える心を育成する。

４　指導計画（６時間完了）

小単元のテーマ「思いやりを表現する」

	単元名	内容項目	学びのテーマ	他教科との関連
第１時	温情列車	B 思いやり，感謝	さまざまな人の立場から物事を見ることで多角的に考えてみよう。	特別活動の自他の個性の理解と尊重
第２時	命の選択	D（１９） 生命の尊さ	「命」について考えよう。	社会科（公民）の産業や科学技術の発展と人権
第３時	二通の手紙	C　（１０） 遵法精神，公徳心	規則は何のためにあるのだろう。	社会科（公民）の立憲主義と日本国憲法
第４時	手品師	A（1） 自主，自立，自由と責任	「誠実」とはどういうことだろう。	特別活動の学級や学校における生活上の諸問題の解決
第５時	巣立ちの声が聞こえる	C　（１５） 学校生活，集団生活の充実	よい校風をつくり，継承していくために大切なことは何だろう。	特別活動の学校における多様な集団生活の向上
第６時	手紙	A 希望と勇気，克己と強い意志	将来の自分の姿を思い描き，理想的な生き方について考えよう。	特別活動の目標をもち，生活や進路について考えること

５　単元の評価のポイント

・思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに答え，人間愛の精神を深めたか。

・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解し，寛容の心をもって謙虚に他に学び，自らを高められたか。

６　本時の学習指導

（1）本時のねらい

父母の，祖父を思う気持ちを考えることで，命について多面的・多角的に考えることができる。

（2）準備

①生徒　・教科書　　・タブレット端末

②教師　・板書資料

（3）育成するESD能力と評価のポイント

学習	活動段階	評価のポイント	育成するＥＳＤ能力
自己を見つめる学習	４・６	・「死」の在り方を見つめて今ある自他の「生」を尊び，命について多面的・多角的な見方へと発展したか。 ・教材やクラスの話し合いを通して，「命」について考える上で家族や本人をお互いに思いやることや，決断することの難しさなど，考えを深めたか。	③多面的，総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力

（4）展開

段階	生徒の活動	教師の活動
導入 (5)	1　もし世界があと一週間で終わるとしたらどのようにすごしたいか話し合う。 ・好きな食べ物を食べたい。 ・世界中に旅をしたい。	・自分事として捉えられるように，自分のことと仮定して「命」について問う。 ・身近な人の死を経験している生徒もいるかもしれないので言葉に注意する。
問題 (2)	2　本時の学習課題を把握する。 **「命」について考えよう。**	・学習課題を板書する。
課題把握 (5)	3　教師が黒板に貼るキーワードを見ながら，あらすじを確認する。 ・尊厳死とはどういうものか確認する。	・「事前読み」をしていることから，キーワードを絞って，簡潔にあらすじを確認する。中心ワードは目立つ色になるよう工夫する。 ・尊厳死については事前に学習しているため，簡単に確認する。
追究 (33)	4　自分が父母の立場なら延命措置をするかどうか，グループで話し合う。 ・自分の父だったら，もっと長生きしてほしいから延命措置をする。 ・命は父のものだから，父の思いを尊重して延命措置をしない。 5　物語の中で，父母の心が一番うごいたきっかけ取り上げ，父母の尊厳死に対する考え方の変化に気付く。 ・祖父の苦しむ顔を見て，早く苦しみから救ってあげたいと思い，延命措置をするという判断に傾いたと思う。 6　もう一度，自分が父母の立場なら，どんな判断をするかグループで考える。 ・父が家族に迷惑をかけたくないという気持ちは分かるが，家族としては，父が生きていてくれれば，迷惑だとは思わないと思う。	**・考えを深め，カタリバ活動が活発になるように，意図的に４人の小グループを構成し，司会を得意とする生徒により話し合いを進めるよう促す。** **・活発な話し合いができるよう、事前に尊厳死に対する考えを書くようにしておき，意見が異なる生徒によるグループを構成する。** ・生徒たちが主体的に資料をとらえることができるように,「父母の気持ちが大きく変化したのはどこかな」と尋ねる。 ・父母の思いに迫れるように，前後の気持ちを図示化して葛藤する思いを話し合うよう展開する。 ・祖父の思いも考えることで父母の葛藤を想像できるようにする。 ・生徒が多角的に考えることができるよう，父母の思いや状況を考えながら，自分ならどのような判断をするか考えるよう促す。
整理 (5)	7　話し合い前の自分の意見と話し合い後の思いを比較しながら，本時を振り返り，ポートフォリオに記入する。 ・延命措置をしないという意見もわかるが，やっぱり，祖父には長生きしてほしいと思うから，延命措置をすると思う。まだよくなる可能性があるのならばその可能性にかけたいと思う。 ・祖父の思いを尊重したいけど、もしかすると延命措置をして回復したところで、また祖父との時間が少しでも過ごせるのなら、延命措置をする。 ・家族に迷惑をかけたくないという祖父の気持ちを大切にして延命措置はしないと思う。見ているのはつらいけど、祖父はもっとつらいと思うから自分も一緒にそばにいて少しでも励ましたい。 ・祖父の考え通り、延命措置はしないけど、祖父が苦しそうにしているのを見るのはつらいので、その場から離れてしまうかもしれない。	・話し合いを経て，自分の意見が変わった生徒も，変わらなかった生徒も認め，多角的に考えられていたことに価値をおく。。 ・机間指導を行い，生徒のたどり着いた思いを受け止め，赤ラインを引く。 ・生徒の振り返りの中から，本時のねらいにせまる意見を全体の場で発表するよう，意図的に指名しておく。